

# 額田の城下町

額田城跡保存会 会報部会

## ～目次～

母とふる里を思う	1P
額田に住んで/地域遺産としての額田	2P
新聞記事にわくわく/額田城の整備から測量に至るまで	3P
ボランティア日程等/令和5年度決算状況	4P



## 「母とふる里を思う」

清水 美喜子

うさぎ追いし・・・と口ずさむと胸が熱くなってしまふ。遠いふる里は北へ360km雪の多い新庄節の発祥地の山形県北部奥羽山脈を背に東北の富士と言われる鳥海山、夏スキーが楽しめる月山、芭蕉も旅した神の山霊峯山と言われる神秘的な出羽三山が眺められる山並に囲まれた山間部にある盆地の里です。ふる里離れて額田に嫁ぎ早六十年、倅せばかり続かず最愛の主人を見送り辛い六年の歳月を乗り越えて、今は孫やひ孫の成長を楽しみに心癒される生活を送っています。

大好きな母が亡くなって十二年、八月一日の主人の誕生日に毎年色鮮やかな紅花が届き我家の玄関はふる里の香で一杯になった。料理好きな母は器にもこだわり銀山温泉にある上の畑焼きの瓢堂先生の作品が多く、母の物はすべて心の宝物なので処分出来ず持ち帰り、今は日替わりで愛用している。

色々郷土料理も教えてくれた母、冬には具沢山の中に擂り鉢で納豆をつぶして入れる納豆汁、身も心もほっとする料理です。

夏には茄子、きゅうり、みょうが、

新鮮野菜を使った「だし」、さきいかを入れた太切りきんぴら、おせち料理等々・・・

母の笑顔は自慢の御馳走、今でも忘れられずみんなで思い出話をしながら楽しく食事している。今年の冬はとても寒かったので起きたら母の手作り半天を着て、夜は布団の上に掛けて母の温もりを感じ八十才の年令になっているのに、叶うならもう一度優しかった母に逢いたいと思っている。母と私のふる里が大好きだった主人は亡くなるまで里帰りしてくれた事を思い出す。

お蔭様で財産である友も大勢で家族が増えた事に感謝しふる里同様額田を愛し地域の方々に支えられ見守って頂き、ふれ合いを大切に歩んで行きたいと思っております。





## 「額田に住んで」

竹内悠葵

紗奈恵

私たち家族がこの額田地区に引っ越してきて、2年と少しの年月がたちました。この記事を書くにあたり夫婦で2年間を振り返ったところ、周囲の方々には親切にしていただき、地区での様々なイベントがあり、まだ2年しか住んでいなかったのかと驚きました。ずいぶん長く住んでいるような気がしていましたが、それだけ楽しく充実した日々を送れているのだと思っています。

そんな楽しい生活をさせてくれている額田の、私たちがこの2年間で見つけた魅力あげてみます。まずは額田城跡です。時折、家族3人で散歩をしています。豊かな自然の中の道はよく整備され、子連れでも気分よく歩くことができます。それから、額田神社。神社にも時折散歩に行きます。散歩にだけでなく、神社ではイベントも多くなされており、中でも節分の豆まきは、子供がとても楽しみにしています。また、神社から山車が出る額田まつりも大変な賑わいで楽しく、山車の並んだ様は壮観でした。夜には花火まであがり、盛大さに驚きました。さらにはスポーツイベントやお花見、小学校の150周年記念行事など、地区の人々が楽しむ行事の多さも素晴らしいことだと思います。

最もすてきな魅力だと思っています。それは、それらを協力して作り上げている額田の人々の関係性です。額田城跡がきれいに整備されているのは、額田城跡保存会の方々が定期的に集まって手入れをなさって

いるからです。神社や地域でのイベントも地域の方々の協力し合う姿勢や参加しようという気持ちがあつてこそ成り立つものです。また、引っ越してきた私たちに声をかけ、温かく迎え入れてくれる気持ち。きつと神社やお城ができるずっと遠い昔から、この地区の人々はこういった関係性や気持ちをもって生活していたのだらうと、歴史ある場所を散歩しながら思います。

私たち家族も、協力しあう気持ちや人に優しくする気持ちを持ち、額田の人として地域行事に参加しながら、次の代その次の代へとつないでいけたらとても素敵なことだと思っています。これから新たな魅力を発見しながら額田生活を楽しむつもりです。

\*竹内悠葵様 近年額田に越してこられ、県立東海高校教諭として地域や生徒の育成に活躍されています。

## 「地域遺産としての額田」

那珂市歴史民俗資料館学芸員

菊池 晶

額田は久慈川と有ヶ池という水系に囲まれた地である。その水系を起点として、人々の生活の基盤となり、額田の長い歴史が始まった。

では額田にはどういった「モノ」があるのか。古い順に概観していこう。まずは、久慈川に沿って埋蔵文化財が多く確認されている。旧石器時代から縄文、弥生、古墳…とい

うように広い時代の集落跡などの遺跡が確認されている。さらに目視可能な古墳群も残存している。

「額田といえば」中世のモノである額田城跡は圧倒的だろう。鎌倉時代中期に佐竹系額田氏が築城し、その後佐竹家臣の額田小野崎氏が入り、約350年続いた城だ。県内最大規模の平山城であり、主要部のまわりには「本宿」や「柄目」など城郭に関連する小字もあるため、広域な城郭であったことがわかる。また、周辺の寺院には額田小野崎氏に関連したモノもあり、中には県指定文化財もある。これらは中世の額田を想起させ、地域の歴史を知る入り口にもなりうる。と考える。

中世から宿として栄えていたが、近世の額田はどうだろうか。やはり水戸徳川家との関係性を如実にあらわす鈴木家住宅（県指定文化財）の存在が大きい。歴代藩主が瑞龍山（常陸太田市）に参拝するための休息所として用いられていた。あわせて近辺の寺院では宿寺としての利用もあった。近世においても鈴木家住宅を中心に栄えていたといえるだろう。

以上のように額田は数多くのモノが広い時代かつ地下にも地上にも残っている地域だ。「モノ」の中には指定された文化財もあれば指定されていない文化財もすべて含んでいる。

文化財というのは、地域に根付き、生活や政治、信仰などを垣間見せる存在であるといえる。それらは指定・未指定に関わらず、





すべからず「地域遺産」であるといえるのではないだろうか。そして、「地域遺産」は身近にある可能性は十分に高い。  
地下にも地上にも多くの「地域遺産」を有する額田。守り伝えていくためにも、地域の方々からの理解と協力をさせていただけると非常に嬉しく思うと同時に、市内だけでなくより広い周知をしていけるのではないかとこの活性化への期待を持ち、本稿を締めぬ。

### 「新聞記事」わくわく

額田城跡保存会 富永 信也

五月三十日の読売新聞に、「大般若経」の断片が発見されたという記事を目にしました。その大般若経は「智感版」で茨城県内初の確認例らしく、更に「小野崎氏」が寄進したとのことでした。

#### 【用語解説】 してみます。

①「大般若経」→西遊記の話です。中国の唐の時代に三蔵法師がインドから持ち帰って翻訳した全600巻の経典のこと。

②「智感版」→室町幕府の征夷大將軍・足利尊氏の発願で僧・智感に命じて作りはじめた大般若経。それを2代目の義詮、鎌倉公方の基氏・氏満らが引き継ぎます。製作には膨大な権力と財力を要しました。

③「小野崎氏」→発見された智感版・大般若経の断片には「応永八年」の年紀と「小野崎」の名前が書かれおり、小野崎氏が寄進したことが分かるそうです。応永八年（一四〇一）頃の額田は佐竹氏（佐竹系額田氏）が治めており、小野崎氏はまだ今の常陸太田にいました。応永三十年（一四二三）佐竹氏の身内争いで佐竹系額田氏は敗れ滅亡し、佐竹氏本家により額田を任せられたのが小野崎氏（額田小野崎氏）です。ちなみに

小野崎氏は山尾小野崎氏・石神小野崎氏・額田小野崎氏の三家に分かれそれぞれ今の日立・東海・那珂に移ります。新聞記事で言う「小野崎氏」は、三家に分かれる前（額田に来る前）の「小野崎氏」です。

#### 【用語解説を終わります。】

「智感版・大般若経」の断片を発見した茨城史料ネット代表の茨城大学・高橋修教授によると「佐竹氏に從っていた小野崎氏が智感版を入手しており、両氏の歴史に新たな知見を加える発見」（読売新聞転記）とのことでした。

確かに何で佐竹氏でなく小野崎氏が寄進・・・？と疑問に思う人も多くいるのではないのでしょうか。

後の時代、額田小野崎氏は佐竹氏に從いながらも、他の小野崎二家とは違い、自立性を持った行動が見られます。最後は佐竹氏と戦って敗れますが、かつて足利將軍家・鎌倉公方と直接の繋がりを持っていた武家として、佐竹氏と対等に渡り合おうとすることは無謀な行動ではなかったと納得がいきます。

以上、額田小野崎氏の自立性や勢力について説明可能な歴史的資料の発見でもあり、わくわくした新聞記事でしたので紹介いたします。

今回発見された資料は、7月20日（土）～8月18日（日）まで常陸太田市郷土資料館梅津会館で展示され

ることです。興味ある方は行ってみてはいかがでしょうか。



(写真提供：常陸太田市教育委員会)

### 「額田城の整備から測量に至るまで」

額田城跡保存会

会長 武藤 博光

今日において、きれいに整備されてきた額田城跡。約三十五年前、私が那珂町議会議員で平成元年の那珂町議会における一般質問で浅川泰郷町長に額田城跡の整備を求めたのが始まりです。当時は荒れ放題でごみも散乱しており誰も散策していない状況でした。ふるさと創生事業1億円を竹下登内閣が興して全国市町村に発令しました。これ幸いと額田城整備を提言したのですが、残念ながら国際交流基金となり、別建てで額田城予算を取って頂いたのが始まりです。

そして令和4年度には念願であった本丸の買収が行われました。那珂市としても本格的に額田城跡を積極的に整



遊歩道木橋を修復しました



備していくという意思の表れです。教育委員会としても額田の歴史的遺産を後世に残したいとのことで二千万円を予算化して実現したのです。

それとは別に産業部商工観光課としても額田城跡を「那珂よし来よし」という観光ガイドマップで紹介しています。新日本歩く道紀行100選「こころと祭りの道認定コース」という旧宿場歴史散策の道で案内されマップ化されて配布されています。

このように額田城跡は教育委員会と商工観光課との2つの部署で担当しています。そんな訳で何か建造物でも建てて観光の目玉にしようとしても史跡事実を重要視する民俗資料館の意向で建物類や橋なども作れないのが現状です。

そして令和5年度は本丸の測量が、エジプトのピラミッド測量も経験した三井測量さんによって行われました。出来上がった等高線は実際の山城を具体化するような出来栄で、これをベースに今後の試掘、発掘を行う予定です。

### 令和6年度 ボランティア日程

7月20日 8月17日 9月21日 10月19日 11月16日 12月21日 2月15日 3月15日

### 令和6年度 管理作業日程

7月27日 8月24日 9月7日 10月5日 11月9日 12月7日 3月1日

## 令和5年度額田城跡保存会 決算状況をお知らせします。

#### 収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)	摘要
前年度繰越金	36,104	36,104	0	
年会費	62,000	67,000	5,000	67戸×1,000円
賛助会費	46,000	46,000	0	46戸×1,000円
雑収入	0	10,000	10,000	寄附(引接寺様より)
合計	144,104	159,104	15,000	

#### 支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)	摘要
会議費	6,000	4,807	△1,193	
事業費	129,000	113,515	△15,485	奉仕作業、機材整備、整備振興、会報紙発行等
事務費	8,000	5,196	△2,804	消耗品、切手等
予備日	1,104	0	△1,104	
合計	144,104	123,518	△20,586	

(収入合計) 159,104円 — (支出合計) 123,518円 = (差引残高) 35,586円

差引残高の35,586円は、令和6に繰り越します。

#### 編集後記

日頃より皆様にはお世話になっております。この度、寄稿して頂いた方々の優しさや額田に対する思いがよく伝わりました(ありがとうございます)。額田城跡保存会は日々城跡の美観に取り組んでおり、近年では額田の他に菅谷、常陸大宮、常陸太田、日立の方々からもご協力をいただきながら清掃作業にあたっています。引き続き、皆様のご協力・ご支援のほどよろしくお願い致します。

額田城跡保存会 副会長 関、編集 富永